

第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画（R5～R12）【概要版】

① 第3次基本計画（H31～R4）の成果・評価

【全体目標】 ■ 製造品出荷額等 2兆円（目標） ⇒ **2兆574億円（2020年実績・2022公表）達成!**

【個別事業】（R3実績時点）

- 達成率 90%以上の事業：新規企業立件数 16件、駿府楽市での工芸品の年間売上金額 30,909千円
- 新商品等開発支援件数 7件、機械設備設置件数 25件、IT導入に関する支援件数 242件（ほか 32件）
- ⇒ **登録する該当46事業で「期待どおり」となった事業の割合 80.4%**
- 一方で、事業承継に対する支援（46%）、伝統工芸技術アーカイブス（50%）、伝統工芸技術秀士の顕彰（0%）と50%を下回ったほか、在職者の能力開発等の「労働力の質」を高める取組ができていない

【特徴的な取組】

- 企業OB等とのマッチングによる経営課題の解決を図る「高度人材活用促進事業」の開催（H31～R4）
- しごとを学び、進路選択に向けたキャリアを形成する「ものづくりキャリア教育」等の開催（R3～4）
- 1生産単位当たりの使用電力を一定程度減少させる「エネルギー消費効率化事業」助成の開始（R4）等

② 社会経済の潮流

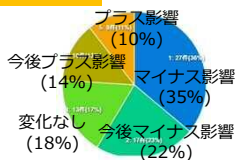
- ウクライナ情勢の緊迫で**原油価格が上昇**、素材系の業種を中心に**生産コスト増**
- 世界各国でカーボンニュートラル・DXの取組が**急速に進展**
- サプライチェーン全体の**脱炭素化・CO2排出量・削減量の可視化**が国内でも拡大
- 設備投資は2020年上半に落ち込んだ後、足下では回復・増加していく見込
- 製造業の就業者は**約20年で157万人減少**（若年労働者は**約20年で121万人減少**）
- 計画的な**教育訓練の割合が低下**（指導する人材や時間の不足が主な理由）

③ 産業界、有識者の声

- DXへの**社内人材が不足**し、カーボンニュートラルやSDGsは**どこから始めていいかわからない**という声が多いことから、4次計画の中で特出していただきたい
- **現状をレベルアップするための取組**を考えること
- 製品の**付加価値を高め**て需要を増やしていくことが大切
- 中小企業者の付加価値を高める「**競争力・販売力の強化**」と若年労働者及び次代を担う若年層に対する「**ものづくり人材の強化**」の2点が非常に重要
- これまでは、量の拡大が中心であったのに加え、今後は、**質への転換が求められている**ことから、多面的に捉える複数の指標を設定すべき

④ 市内中小製造事業者意向調査

経営環境の変化
要因として、売上増加の一方、原材料価格・電力費の高騰等により収益面を圧迫している



優先的に取り組む事項	割合
＜社内環境＞	
・人材の確保	71%
・資金繰り	38%
・BCP作成等	22%
・雇用調整	21%
・就業環境整備	13%
＜社外環境＞	
・販路開拓強化	61%
・新商品開発等	45%
・設備投資	41%
・生産計画見直し	33%
・消費の促進	10%

日本政府「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画」（抜粋）

【新しい資本主義に向けた計画的な重点投資】

- 1 人への投資と分配
 - 2 科学技術・イノベーションへの重点的投資
 - 3 スタートアップの起業加速及びオープンイノベーションの推進
 - 4 GX「グリーン・トランスフォーメーション」及びDX「デジタル・トランスフォーメーション」への投資
- ※参照：内閣官房HP・新しい資本主義実現本部/新しい資本主義実現会議



静岡県「静岡県経済産業ビジョン2022～2025」（抜粋）

- ◆ **基本理念** ◆ 東京時代から静岡時代へ ～新しい生産と消費の循環でSDGsを達成～
 - ◆ **第1章 富を生み出すものづくり・商業・サービス業のイノベーション** ◆
 (方向1) 成長分野における産業育成・プラットフォーム構築
 (方向2) 事業環境の変化を好機と捉えた中小企業の成長促進
- ※参照：静岡県HP・静岡県経済産業ビジョン2022～2025



静岡市「第4次総合計画」（R5～R12）（抜粋）

- ◆ **分野別計画「商工・物流」** ◆
 時代の変化に対応しながら地域資源を磨き上げ
 多様なパートナーシップにより豊かに経済成長を続けるまち
 (政策1) 経済成長の原動力となるイノベーションの創出を推進します
 (政策2) 地域経済を支える中小企業の振興を推進します
 (政策3) 社会基盤を活用した広域物流を推進します
 (政策4) 企業の活性化を支える多様な人材の活躍を推進します



静岡市ものづくり産業振興条例（抜粋）

- ◆ **ものづくり産業の振興を総合的かつ計画的に推進し、もって地域経済の健全かつ持続的な発展及び市民生活の向上に寄与することを目的とするもの**
- ◆ 位置づけ：条例第8条の規定に基づき、当計画により総合的・計画的なものづくり産業の振興を図る
- ◆ 対象：ものづくり産業及び事業者・伝統的地場産業及び事業者・産業関係団体・市民

①～④ からみえてくる
次期計画策定に向けた課題

- ① 時代に適応した質（付加価値：競争力や販売力）を高める取組が求められる
- ② 労働者の減少は、経済活動の鈍化にも繋がる

第4次静岡市ものづくり産業振興基本計画（案）

目指す将来像

持続的な成長を続けるものづくり創造都市 静岡

静岡市は「SDGs未来都市」や、2050年カーボンニュートラル実現に向けた「脱炭素先行地域」に選定された地域であり、発展的な「ものづくり創造都市」へ向けて取り組む



数値目標

① 市内製造品出荷額等

現状 **2兆1202億円**（工業統計調査 2019実績）
 ・2026年：**2兆2581億円**（現状比 107%）
 ・2030年：**2兆4174億円**（現状比 114%）

② 人材育成に取り組む市内製造事業者の割合

現状 **82%**（市インターネット調査 2022結果）
 ・2026年：**86%**（現状比 105%）
 ・2030年：**90%**（現状比 110%）

③ 実質市内総生産額（製造業）

現状 **9387億円**（県民経済計算 2019実績から推計）
 ・2026年：**9821億円**（現状比 105%）
 ・2030年：**1兆526億円**（現状比 112%）

④ 実質市内現金給与総額（製造業）

現状 **2160億9千万円**（工業統計調査 2019実績から推計）
 ・2026年：**2303億円**（現状比 107%）
 ・2030年：**2389億円**（現状比 111%）

●前提とする条例の定義

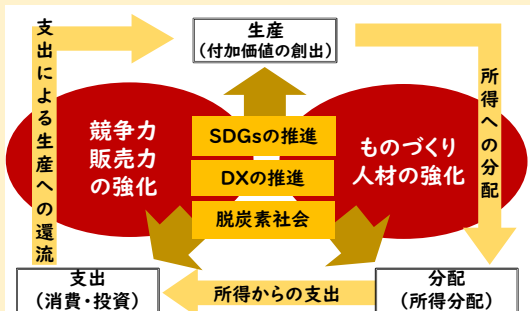
条例第3条（基本理念）
 条例第4～7条（各者の役割）
 条例第8条第2項（定める事項）

●第3次計画からの見直し要旨

計画期間を上位計画に整合（4→8年）	変化に応じた見直し・評価に向けた二部構成
直接的に必要な取組に重点・集中化	政策・施策を目的を意識した表記に変更
マクロな視点を加えた足下の施策を登載	計画及び各事業の主たる対象を明示

基本的な考え方

次世代の技術を取り入れ、激変する社会や時代と調和した世界に通用する産業として発展させ、地域で生産された製品を市民が愛し活用する風土を醸成することにより、豊かで活力ある地域社会を実現する



<計画の体系図>



○ 継続事業（拡充を含む） ● 新規・検討事業

重点的に取り組む事項

